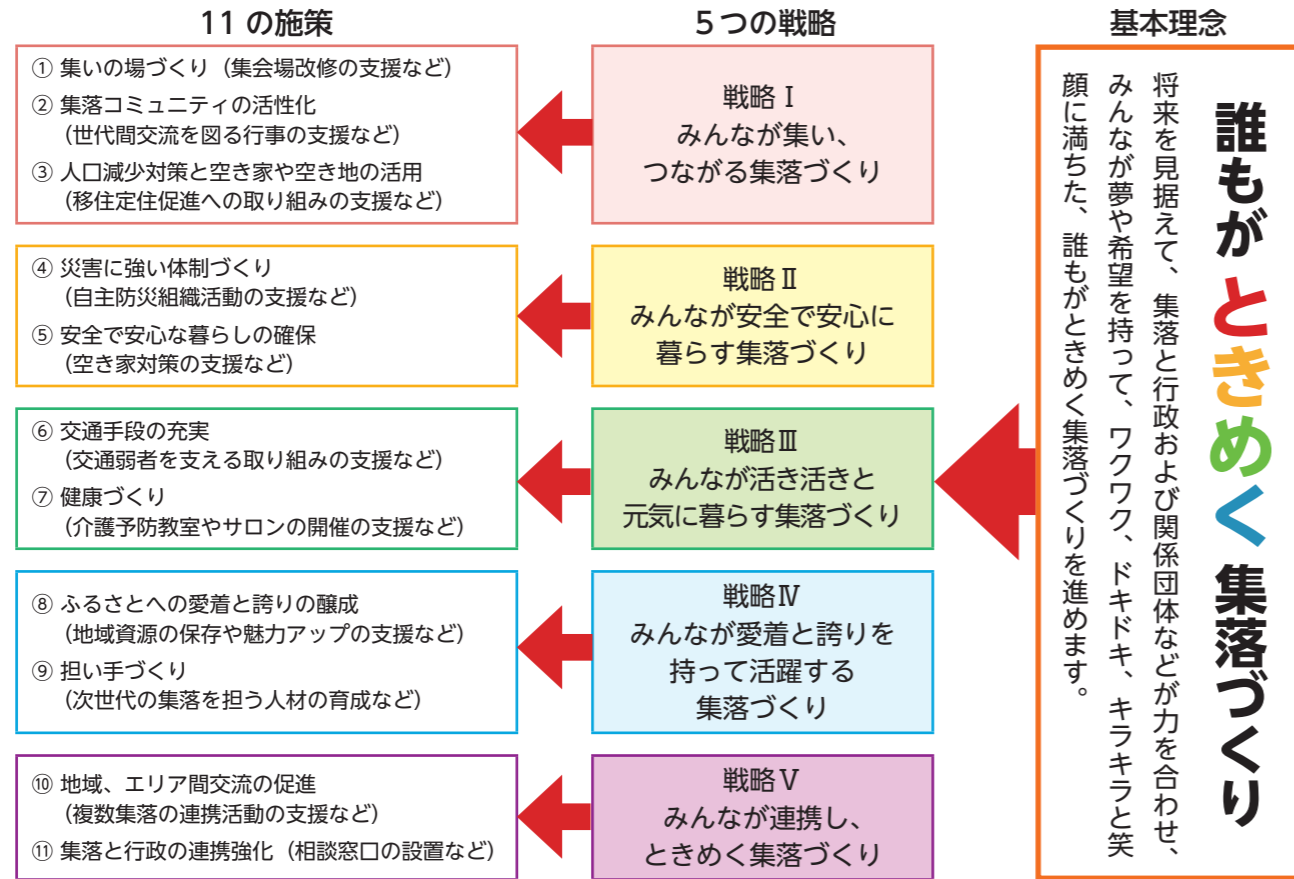


「まち・むらときめきプラン」とは？

平成30年度に市内の全129集落を訪れ、その集落ごとの現状や課題を取りまとめた「集落カルテ」を作成し、「誰もがときめく集落づくり」を推進することを目的に、5つの戦略と11の施策を取りまとめ、令和元年から5年間の集落活性化の支援策として策定した計画です。



誰もがときめく集落を目指して

つなげよう、未来へ

市では、人口減少や少子高齢化が急速に進む中、活力ある豊かで魅力にあふれた集落づくりの主体的な取り組みなどを支援するため、昨年度に「まち・むらときめきプラン」を策定しました。

このプランに基づき、集落ときめき活動事業補助金を創設したほか、集落の担い手となる人材を育成するための「まち・むらときめきセミナー」を開催し、集落活動の活性化を支援しています。



集落活性化の取り組み紹介



清滝区 区長 長谷部 博司 氏

取り組みむきっかけは？
自分たちが住んでいる集落に愛着や誇りを感じている一方で、若い人たちがどんどん都会へ出ていき、集落には老夫婦世帯が残り、空き家が増えていくといった、集落が衰退する不安が現実味を帯びてきました。

清滝区の取り組み
平成31年4月に「清滝区活性化委員会」を設立。「区民よ立ち上げ」をスローガンに、集落活性化に取り組み。
今年、まち・むらときめきプランの事業の一つ「集落ときめき活動事業補助金」を活用して、休耕田にコスモス栽培を実施。満開のコスモス畑で、金津東こども園の園児による写生大会を開催し、剣岳かりんて祭では、写生大会の表彰式を実施するなど、他機関を巻き込んだ活動に取り組んでいる。

今後の展望は？
コスモス栽培については、剣岳地区の特徴であるのり面の高さを生かしたビュースポットやコスモス畑までの道路を整備したいです。
また、北陸新幹線芦原温泉駅開業に向けて、中山間地である剣岳地区の魅力をさらに磨き上げていくことも必要だと考えています。剣岳そばや米などの食だけでなく、6月には蛍が乱舞するこの地域をもっと多くの人に知ってもらいたいですね。

取り組みで良かった点は？
集落内の若い人たちが、前向きに集落活動に取り組んでくれるようになりました。コスモス栽培には、草刈りや田おこしに労力が必要となり、当初は人手不足に不安を抱えていましたが、意外にもたくさんの方が協力してくれました。

そんな中、集落内から「まず」はできることから、減反に割り当てられた休耕田にコスモスを植えよう」と声が上がったのがきっかけです。

こうした状況の中、各集落のコミュニティ活動の衰退を防ぎ、「住みたい」「住み続けたい」集落であり続けるためには、これまで集落で受け継ぎ、蓄積してきた文化や伝統、財産を守り継承するとともに、集落を担う人づくりを推進するなど、集落の活性化に向けた主体的な取り組みが重要となります。

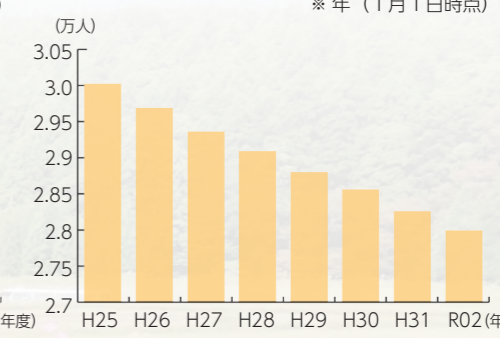
高齢化率 (%)

※年度 (4月～3月)



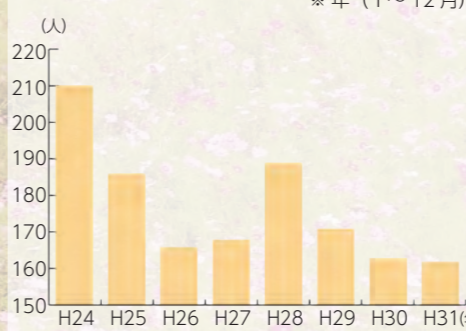
人口 (万人)

※年 (1月1日時点)



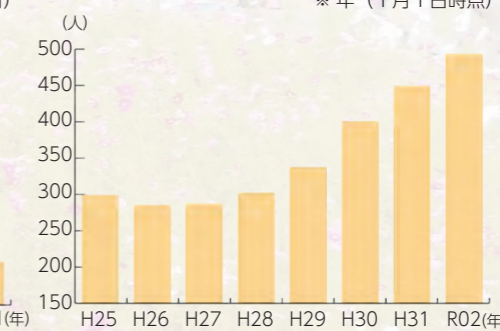
出生数 (人)

※年 (1～12月)



外国人人数 (人)

※年 (1月1日時点)



あわら市の現状
過去の人口などの推移を見ると、人口は毎年約250人減少、出生者数も年々減少しており、令和元年の出生者数は162人まで減っています。一方で、高齢化率は上昇しており、人口減少・少子高齢化が進行していることがうかがえます。また、市内に在住する外国人は増加しており、あわら市を取り巻く社会環境は大きく変化しているといえます。